

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0173100371		
法人名	有限会社 プランタン東川		
事業所名	グループホーム プランタン東川		
所在地	上川郡東川町北町3丁目2番7号 (電話) 0166-82-5430		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年2月10日	評価確定日	平成22年4月27日

【情報提供票より】 (平成22年 1月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 7人, 非常勤 12人, 常勤換算	9.7人

(2) 建物概要

建物構造	壁式鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 10,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (1月13日現在)

利用者人数	18名	男性 9名	女性 9名
要介護1	3名	要介護2	6名
要介護3	4名	要介護4	2名
要介護5	2名	要支援2	1名
年齢	平均 80.2歳	最低 66歳	最高 89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊岡内科整形クリニック、林歯科クリニック、東郷整形外科クリニック 東光やわらぎ泌尿器科
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大雪連峰を背景に豊かな水量に培われ、農業が町を支えている東川町のほぼ中央にホームはあります。昨年までは近くの福祉専門学校との交流が盛んに行なわれていましたが、現在は中断しています。これが原因で利用者の外出も若干減少の傾向にありますが、管理者はそれを補えるよう改善に努めています。町のモットーが「美しく生きる」とありますが、自然豊かな東川町にあってプランタン(春)を呼ぶこのホームの息吹は、これからも大きく期待されるものと思われまます。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、4項目の取り組みが示されていましたが、「重度化や終末期に向けた対応」と「災害対策」では、いずれも十分とは言えませんが、前向きな取り組みが行なわれ、部分的な改善は評価されます。未解決な課題についても、引き続き積極的な取り組みを期待します。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	評価を行なう上で職員全員の参加が望ましく、管理者の作成した評価を職員に回覧していますが、職員全員が各々日頃のサービスを振り返りながら、評価作業に当たることが重要です。自己評価及び外部評価の意義を今一度理解する取り組みを期待します。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)  ホームの状況報告に続いて行なわれる、自由な質疑応答など見るべきところはありませんが、定期的な開催が十分ではなく、地域の方々の参加も少なく、地域包括支援センターや町職員が出席していないなど、会議メンバーを再検討して、会議内容をより豊かにする取り組みを期待します。また、災害に関わる地域への協力の働き掛けや自己評価及び外部評価への取り組み状況を報告しながら意見を頂くなど、本来あるべき運営推進会議の運営を期待します。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族からの意見や要望、苦情などは、ホーム運営にとって貴重なものであるとの認識を職員全員が共有しなければなりません。家族との些細な会話の中に貴重な意見などが内在している場合を想定し、「家族会話メモ」を作りながら、管理者と職員が共に検討し共有が必要です。また、玄関に置かれている「意見箱」も広報を利用するなど、家族の意見がホーム運営に反映される取り組みを期待します。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常生活で、地域との連携は十分ではありません。町内会行事への積極的な参加や交流が必要です。ホーム事業へも地域の方々の参加ができる企画が望まれます。地域における認知症の相談、災害時の避難への理解などを含めて、運営理念に謳われている「地域に根付いた環境の中で安心した生活を送る」へ積極的に取り組まれるよう期待します。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に根付いた環境の中で、安心した生活が送れる」というホーム独自の崇高な理念が謳われています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、定期的に行われるカンファレンスで理念の再確認を行なうなど、常に共有を図りながら、サービスに反映させるため、日々取り組みに努めています。また、ホールや玄関ロビーにも理念が掲示されています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入していますが、敬老会など年に1～2回の参加にとどまり、地域とのつきあいは十分ではありません。町にあっては高齢者の福祉向上に熱心であるとの感触を得ており、他の施設との交流を含め地域の方々との交流について、指導を仰ぎながら機会の確保が急がれます。	○	グループホームが、また、そこで暮らす利用者が孤立することなく地域に馴染みながら、その人らしい暮らしの継続を支援することが理念に謳われている「地域に根付いた環境の中で安心した生活を送る」であろうと思慮します。職員が利用者と共に散歩に出た際に、住民の方々へ積極的に挨拶をし、住民の方々のお名前を覚えるくらいの積極さを期待します。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成では、非常勤の職員が参加していません。また、管理者が作成したものを職員に回覧しますが、職員一人ひとりの日常のサービスに対する気づきや反省、改善への意気込みが見えてきません。評価の意義の理解が十分ではありません。	○	年に1回の自己評価及び外部評価は、職員の日頃のサービスへの振り返りであり、ホームのサービス評価でもあります。昨年の課題取り組みも一部の解決と着手が認められますが活用に至らず、今後評価を活かした具体的な取り組みを期待します。

東川町 グループホーム プランタン東川

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況、利用者の状況などの報告、ディスカッションの様子が議事録から理解できますが、昨年の4月以降、会議の開催は3回に止まり定期的な開催がありません。また、出席のメンバーも地域住民の方々が少なく、地域包括支援センター、役場職員の出席がないこと、評価に関わる取り組みや災害時の住民の方々への協力要請なども話し合われていません。	○	ホームの活動を示し助言を得るため地域の住民の方々や包括支援センター職員など、幅広い柔軟なメンバーによる定期的な開催が望まれます。また、評価の内容を開示しながら、改善への取り組み状況を報告しモニター役となっていただくなど、助言を得ながらホームと地域との交流促進の架け橋となるような会議運営を期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町が主体となった福祉関係者からなる地域連絡会議が2ヵ月毎に開催されて、福祉に関する勉強会に職員も出席するなど、町と連携し福祉のサービス向上を図っています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族に送られる請求書に併せて利用者の生活の状況を知らせるお手紙、また、預り金の明細書、領収書を添付しています。家族の訪問時には、管理者及び担当職員が対応して利用者の様子を報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時の会話の中から、家族の意見や要望、苦情を聞き取るよう努めていますが、それらホームの運営にとって大切な意見や要望を記録するシステムが不十分です。また、「意見箱」も設置されていますが周知不足など、利用方法も不十分です。	○	家族からの意見や要望、更には苦情などが、ホーム運営にとって貴重なものであるとの認識を職員全員が共有しなければなりません。家族との些細な会話の中に貴重な意見などが内在している場合を想定し「家族会話メモ」を作りながら、管理者、職員間で内容検討と共有が必要です。また、「意見箱」への利用も広報によるなど取り組みを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前から比較して、職員の退職などによる異動は少なくなっており定着の傾向にあります。退職した場合、また新人職員の場合は、利用者へのダメージを防ぐためベテラン職員がサポートしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員のスキルアップによるサービスの質の向上を図るため、外部研修などの情報をできるだけ職員に伝え、研修機会の確保に努めています。しかし、現実的に研修の参加成果が上がらないことも踏まえ、管理者は強力に推進の方向で検討が行なわれています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内には三つのグループホームがあり、地域連絡会議のなかで地域包括支援センターと連携しながら交流を図っています。相互訪問には至っていませんが、ホームの視察などを通してサービスの質の向上を目指しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する場合は、利用者と家族が事前に訪問し、ホームでの暮らしを実際に見ていただき、十分納得されたうえで入居を決めていただいています。新しく利用者となった場合でも、サービスをいきなり開始するのではなく、早く馴染めることを第一として職員は取り組んでいます。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と暮らしを共にしながら、喜怒哀楽を共有して、支えあう関係作りに努めています。また、新人職員に対しては、早く馴染むよう環境作りが進められています。職員間ではレクリエーションをもっと多く企画して、共に過ごし支えあう関係作りを期待する要望もあります。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ利用者との親密な関係作りをしています。家族からの情報も得ながら思いや意向の把握に努めますが、どうしても困難な場合は、利用者本位で検討を加えることとしています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的開催されるサービス担当者会議に併せて、ケアカンファレンスが行なわれ、利用者への支援課題などが協議され介護計画が作られています。しかし家族の意見や要望の反映、介護計画に連動した日常記録などが十分ではありません。	○	利用者のより良い暮らしの継続を支援するためには、利用者、家族、職員を含めた十分な話し合いが必要です。また、暮らしを豊かに継続するためのアクティビティーに関するアセスメントを度々行ないながら、計画に反映した支援が行なわれることが必要と思慮し、それらの取り組みを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月を期間とした定期的な見直しが行なわれています。また、退院時には医師の指導をいただきながら、心身の状況に合わせた介護計画の作成が随時行なわれています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況を踏まえ、病院への送迎や買物、自宅を見たいとの利用者の希望を叶えるドライブなど、その時々々の状況に合わせた柔軟な支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望により、かかりつけ医への通院等の支援をしていますが、大方の場合は、ホーム協力医が主体となって利用者の健康維持管理が行なわれています。緊急時の往診を含めた24時間対応で、適切な医療が受けられるよう支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年からの取り組み課題の「重度化や終末期に向けた対応指針」が作られ、課題に向けた取り組みが見られますが、利用者及び家族への話し合い、また、職員間での指針の共有がされていません。	○	これからの入居に際しての指針の説明は必要ですが、従来の入居者についても、家族とできるだけ早い段階から指針に基づいた話し合いが望まれます。また、状況を踏まえ医師を交えた繰り返しの話し合いが必要で、それら取り組みを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	昨年からの取り組み課題の「面会簿」は、連名式から単票のカード式に改善されました。利用者の呼び方も優しく、トイレへの誘導など、利用者の尊厳を尊重する姿勢を見ることができます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして1日の大まかな流れはありますが、利用者の状況を踏まえて、利用者のペースに合わせた、その人らしい暮らしが継続できるよう支援しています。		

東川町 グループホーム プランタン東川

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下拵えや食器洗いなど、職員と共に楽しみながら行なっています。食事の介助が多いこと、また、2階ユニットの食堂が狭いこともあり、職員と一緒に食事はしていませんが、管理者は利用者と一緒に食事をする大切さ、必要性を認識しており、検討が加えられています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者には、曜日を定めながら週2回の入浴の目標で勧めています。利用者の心身の状況によっては曜日を変更するなど、利用者本位で入浴ができるよう配慮しながら支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内では、自室や共有スペースのリビングや廊下など、職員と共に掃除を楽しんでおり、役割として理解しながら継続して行なわれています。カラオケ、塗り絵、麻雀などで楽しめる利用者もいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日には、2階のウッドデッキで自由に日向ぼっこをしています。通常の散歩には、ホーム前が国道のため、職員が最大の気配りを必要としており、回数的に減少傾向の大きな要因となっています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の突然の外出などに対応して、玄関内の施錠が行なわれています。管理者は施錠の弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいますが、1階のフリースペースの設置などには時間が掛かるようです。		

東川町 グループホーム プランタン東川

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域消防組合の協力をいただいて救急救命の勉強会が開催され、職員の災害に対する関心は深いものがあります。昼夜想定避難訓練が年2回開催されていますが、地域住民の方々への災害時の協力要請などは十分ではありません。	○	災害時を想定した地域住民の方々との話し合いが必要です。特に職員が少ない夜間においては近隣の住民の協力によるところが大きく、臨場に合わせた具体的なマニュアルを作成して、住民の方々の参加と協力要請が急務と思慮し、運営推進会議に止まらず、町内会へ要請するなどの取り組みを期待します。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌により毎日の水分摂取量及び食事量が記録されています。水分の摂取を一定量確保し脱水への対応、また、食事量では栄養バランスにも配慮しながら、一人ひとりの習慣に合わせた支援が行なわれています。		
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階の居間及び食堂は広々として、ゆったり感がありますが、2階は居間と食堂共に、構造上に加えて車椅子の利用者が多く、手狭感があります。廊下やトイレは車椅子の対応ができております。居間には塗り絵や写真などが、賑やかに貼られており生活感のする共用空間の工夫があります。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれた居室やシンプルな居室など、利用者や家族の状況によって様々ですが、何れも利用者や家族との相談により、個性ある暮らしの空間となっています。		

※  は、重点項目。